

「富岡製糸場と絹産業遺産群」と連携した シルクカントリー桐生の推進について （改訂継続）

群馬県では「富岡製糸場と絹産業遺産群」が 2014 年 6 月に世界遺産登録されました。

当初 2004 年には絹産業の養蚕、製糸、織物、流通という一連のストーリー性を持った取り組みで 10 物件の暫定リストとともにスタートしましたが、外国専門家やイコモス等の意見を尊重し「平泉」や「富士山」の例も踏まえて分かりやすく 4 構成資産（①富岡製糸場②高山社跡③荒船風穴④田島弥平旧宅）に絞り込まれての登録となりました。

桐生市は構成資産から外れていますが、日本の近代化に大きく貢献し世界に進出した民間の繊維産業都市として官営の富岡と対比される重要な絹文化、絹産業の集積都市であります。

現状は富岡の登録となりましたが、いずれは富岡と共に絹文化を象徴する世界遺産都市としてユネスコ精神を広く啓蒙する拠点都市となる普遍的価値を持っていると言えます。

富岡製糸場は登録年の 2014 年度には入場者 133 万人という大きな誘客がありましたが、2015 年度には 114 万人となり、2016 年度は 80 万人と大きく減少しています。シルクカントリー群馬を広く全国に発信していくためには、その象徴である富岡製糸場のみならず、県内全域に分布する「ぐんま絹遺産」、さらには桐生が構成資産の半数を占める日本遺産「かかあ天下一ぐんまの絹物語ー」をつなぐストーリーづくりが必要です。

つきましては、「桐生新町重要伝統的建造物群保存地区」やノコギリ屋根工場などの県内最多を誇る貴重な絹産業遺産を核に、富岡製糸場と絹産業遺産群と連携した織物の街・桐生を全国に発信するシルクカントリー桐生の推進し、観光誘客による地域経済の発展につながる各種施策の構築を要望いたします。

【桐生市からの回答】

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録は、本市の観光振興にとって絶好の機会と捉え取り組んでおります。群馬県が登録するぐんま絹遺産では、91か所のうち県内最多の18か所があり、本市の絹遺産は大変注目されています。

また、文化庁が日本遺産に選定した「かかあ天下一ぐんまの絹物語ー」を構成する県内13の資産のうち6件が本市の絹遺産などであります。

市では、旅行社などへ世界遺産と本市を結ぶ旅行コースを提案し、旅行商品のコースとして商品化されております。

今後も、世界遺産と関連性が注目される、本市の貴重な産業遺産や県内最多を誇る絹産業遺産を核に、まちなか観光や産業観光を推進し、観光誘客による地域経済の発展に努めてまいりたいと考えております。

【回答担当】産業経済部観光交流課観光・物産係

絹遺産をはじめとする産業遺産は「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録されたことによりその重要性が全国的に認識されており、本市においても織物産業を基盤に発展してきた歴史や文化を今に伝える近代化遺産が数多く存在し、近年ではその重要性と共に「まちの個性」としても注目されております。

今後もその重要性を的確に捉え、指定や登録など文化財保護制度による保存の推進や活用について、世界遺産とともに文化庁が認定した日本遺産「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」や群馬県が登録している「ぐんま絹遺産」と連携し、また、観光に係る組織・団体との協力のもと各種施策の一助となるよう努めてまいりたいと考えております。

【回答担当】教育委員会管理部文化財保護課文化財保護係